

令和2年度  
だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業



# 避難所開設訓練

2020



# ダイジェスト



合い言葉は 自助から共助へ

# 《 だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業 》

大仙市教育委員会 教育指導課

## 本事業でねらう3本の柱

- 「自分の命を自分で守る子ども」の育成
- 小・中学生によるだいせん絆プロジェクト
- 自主防災組織づくりから広げる地域力の向上

## 防災教育に関わる市内小・中学校の主な取組 【これまでの取組】

### ～ I・支援と交流 ～

- ①被災地支援  
＜全小・中学校＞
  - ・募金・米・文房具などの送付
- ②被災地訪問による交流  
＜市内4中学校・8小学校(H29)＞
  - ・部活動交流、グラウンドゴルフ、だまこ汁の提供、清掃奉仕活動
  - プランター花のプレゼント
  - 花火大会
- ③中学生サミットによる支援
  - ・ヘルメットや図書の寄贈、被災地訪問による交流と学習会
  - ・交流活動の報告会

### ～ II・国や市の事業 ～

- ①H23 福島っ子との交流事業  
市内5小学校、3地域
  - ・冬祭りへの参加や音楽交流、郷土料理体験
- ②H23～H25復興教育支援事業  
(文部科学省指定) <大曲中>
  - ・創作花火の打ち上げや鉢花贈呈、若竹町内会との合同避難訓練
- ③避難所開設訓練  
H25 平和中 H26 大曲西中 H27 西仙北中  
H28 仙北中 H29 太田中 H30 大曲南中  
H31 豊成中
- ④市総合防災訓練への参加  
H23中仙地域 H24南外地域 H25協和地域  
H27太田地域 H28大曲地域 H29県冬季防災訓練  
H31西仙北地域

### ～ III・計画等の整備 ～

- ①「学校安全計画」「危機管理マニュアル」「防災教育年間指導計画」等の整備
  - ・整備の実態把握と改善
- ②「大仙市版・避難所対応マニュアル」の提供
  - ・総合防災課との連携による計画立案
- ③各学校における緊急連絡体制の整備
  - ・携帯電話等による電子メール配信システム整備

## 【課題】

- ★地域の実態に即した避難所開設の在り方
- ★自主防災組織と連携した防災活動
- ★市内小・中学校の防災ラジオの整備及び受信環境整備

# 令和2年度の計画

## ～ I・交流の継続と充実 ～

被災地との交流

<市内2中学校>

- ・ 平和中⇄大槌町（吉里吉里地区仮設住宅）
- ・ 太田中⇄大槌町（大槌学園）

## ～ II・国や市の事業 ～

①市総合防災訓練

② **だいせん防災教育  
「生き抜く力育成」事業**

## ～ III・計画等の整備 ～

「危機管理マニュアル」等の見直しと改善

### だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業

実施予定日	令和2年9月29日（火）
実施場所	大仙市立南外中学校 校舎
参加者	南外中学校全校生徒及び教職員 地域自主防災組織代表住民 市内中学校生徒代表及び教職員 消防署等の関係機関 等
主催	大仙市教育委員会教育指導課及び総合防災課

#### ～主な活動～

- ①生徒避難
- ②避難所開設
- ③地域住民避難
- ④避難所運営
- ⑤避難者への食事の提供

- ・ モデル校の実践として、地震発生時の避難訓練、避難所開設に関わる初期対応の実際を体験させる
- ・ 地域住民との防災訓練及び体験を通して、自助から共助へと主体的に行動する力を身に付けさせる
- ・ モデル校の実践に中学生サミットメンバー及び市内教職員が参加することにより、市内各地域の自主防災に対する意識の高揚を図る

## 事業による成果を生かす

「総合的な学力」を身に付け、「自分の命は自分で守る」児童生徒の育成に“つなげる”  
南外地区の防災モデル実践の成果を大仙市内全域に“広げる”

小・中学生が主体的に社会参画する地域づくりへ

# 令和2年度「だいせん防災教育『生き抜く力育成』事業」避難所開設訓練

大仙市立南外中学校

## 1 ねらい

- (1) 大規模な災害時を想定した具体的な活動に取り組みながら、避難所開設に関わる初期対応の実際を体験し、災害時の迅速かつ適切な行動や避難所開設に係る役割や支援の方法を身に付ける。
- (2) 学校、地域住民（地域自主防災組織）、関連機関との協力体制を確認するとともに、連携した訓練を通して、自助から共助へと主体的に行動する力及び防災に対する高い意識を身に付ける。
- (3) 避難者の心に寄り添った避難所運営を行うとともに、地域の一員としての役割を自覚し、主体的に開設・運営に参画する態度を育む。

2 実施日時 令和2年9月29日（火） 9:20～14:30

3 場 所 大仙市立南外中学校 グラウンド・体育館及び校舎内

## 4 参加者

参加者	人数	備考
南外中学校生徒	45	避難所従事者
南外中学校教職員	15	避難所従事者
大仙市総合防災課職員	5	指導者
大仙市教育委員会教育指導課職員	9	避難所開設訓練・サミット担当
南外支所・南外公民館職員	5	避難所従事者
南外地域住民（自主防災組織）	15	避難者
南外地区赤十字奉仕団	3	避難所従事者
南外小学校児童（5年生）	16	避難所従事者手伝い
南外小学校職員	3	避難所従事者手伝い補助
参加を希望する中学生サミットメンバー	23	避難所従事者
中学生サミットメンバー引率教員	12	参観者
自衛隊	11	避難所従事者（物資輸送）
来賓等	24	参観者等
合 計	168	

## 5 想定内容

9月29日（火）午前9時20分頃、南外地域を震源とする直下型の強い地震が発生し、南外地域で震度6弱を記録した。南外中学区を含む南外地域の多くの家屋が倒壊し、水道・電気のライフラインがあちこちで停止したほか電話も一部不通になった。通常の生活が営めない状況になり、各避難所に市民が集まった。大仙市災害対策本部からの避難所開設要請を受けて、倒壊を免れた南外中学校においても、避難所を開設することとなった。

南外中学校では1校時の授業時間に地震が起こった。そのため、生徒達の身の安全確保のために学校にとどまり、避難所の開設・運営に協力する運びとなった。

## 6 係分担と活動内容

班 名	主な活動内容
総 務	事前集会、避難訓練終了集会、居住スペース割り当て
連絡調整	受付、名簿作成、案内表示、避難者への情報伝達
施設安全	放送設備、休憩スペース作成、照明・扇風機等の設置、食事配膳
物資運搬	電源確保・配線、必要物品・物資の運搬・搬入、食事配膳
給 食	救給カレーの加熱、食事配膳
救護・保健衛生	救護所設置、応急処置、健康チェック、ゴミ箱の製作・設置

※中学生サミットで参加している生徒も、各班に分かれて一緒に活動する。



## 7 活動の様子



地震発生 シェイクアウト



大仙市より避難所開設要請



段ボールパーティションの作製



居住スペース内のアルコール消毒



南外小5年生 テント設営



サミットメンバー休憩スペース設営



避難所完成



活動についての打合せ



避難者の受け入れ



非接触型体温計での検温



救護・保健衛生班



自衛隊から災害時対応のレクチャー



自衛隊からの支援物資搬入



連絡ボードでの情報提供



昼食「救給カレー」の配膳



自主防災組織に引き継ぎ



合い言葉『自助から共助へ』

今回はコロナ禍を考慮し、段ボールパーティションを高くしたり、居住スペースの間隔を広げたり、検温やマスクの配付、アルコール消毒の徹底をしたりするなど、感染予防に努めました。

全校生徒45名が一生懸命がんばることができました。



# 令和2年度「大曲中学校 地域合同防災訓練」報告書

## 1 ねらい

- (1) 地震の性質やそれに伴う災害を考え、安全な行動がとれるよう、態度や習慣を育てる。
- (2) 災害時において、冷静かつ迅速に的確な行動がとれるようにする。
- (3) 地震の発生を想定し、地域住民と中学生・防災関係者が一体となって避難訓練及び実践的な応急対策活動等の訓練を実施することにより、総合的な防災体制の確立及び意識の高揚を図ることができるようにする。

2 実施日時 令和2年10月15日(木)

## 3 実施場所

大曲中学校 校舎内及び校地内周辺

## 4 参加者

大曲中学校生徒(775名)  
教職員(60) 大仙市消防本部  
大仙市総合防災課

## 5 実施内容

○訓練1(地震避難…1・2・3年生・職員)  
10月15日(木)午前9時25分、緊急地震速報が発表され、秋田県沖を震源とする強い地震が発生し、大仙市でも震度6強から7の強い揺れが70秒ほど続き火災も発生したという想定である。緊急放送で生徒に避難指示があり、一斉に体育館に避難した。



○訓練2～4(初期消火・煙道体験…1年生)  
火災発生後の初期消火活動と火災発生時の避難体験として、水消火器による消火活動と煙道体験を1年生全員が行った。



○訓練5(成田防災管理監による講演…2年生)  
成田防災管理監から、河川の増水による災害や対策方法を聴き、防災に対する意識を高めた。



○訓練6(地震体験…2年生)  
地震体験車に乗り、強い揺れを体験した。





○訓練7 (避難所開設…3年生)

「訓練1 (避難訓練：地震想定)」に引き続き、若竹町周辺地域の家屋が全壊または半壊し、大仙市より避難指示や避難勧告が発令され、さらに大曲中学校を避難所として開設するよう市長より指示があったことを想定し、避難所開設を行った。



○訓練8 (心肺蘇生CPRとAED…3年生)

災害時には、救急車を要請しても直ちに現場へ駆け付けることは困難な状況になりやすい。傷病者においては一刻を争う状態もあり得ることから、一次救命処置の仕方について理解し、とっさの場合においても一次救命処置ができるようにする。



○訓練9 (炊き出し訓練…中止)

災害時において水道管が破裂し、上水道の確保ができない中、市より給水タンク車が避難所である大曲中学校にいち早く来たという想定で、給水車の水を使用した炊き出し訓練を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で今年度は中止となった。

## 6 訓練を終えて

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で若竹町内会との協同実施が見送られた。町内会長さんからは、来年度はぜひ参加したいとの話をいただいている。昨年度よりも規模を縮小しての実施となったが、緊急災害時には地域等とのネットワークを大切に、この訓練を生かして行動できるようにしていきたい。

# 被災地交流学習



## 地域活性化に寄与できる子どもの育成 ～学校と地域が連携した防災教育を通して～





# 被災地交流10年目

～大槌学園（岩手）との交流～

大仙市立太田中学校

## 活動のねらい

全校生徒が被災地（岩手県大槌町）に足を運び、生徒一人一人の目で復興の様子やその土地に生きる人々の様子を見聞し、防災の必要性和自己の生き方を考える。



<本年度の活動の変更点>

【従来】

～全生徒が年1回現地へ～  
被災地見学（1年）

花のプランター贈呈（2年）

郷土芸能披露と

太田のお米の贈呈（3年）

【今年度から】

花のプランター贈呈（3年）

（コロナのため花のみ移送）



（3年生が大型トラックにプランターを積み込む様子）

\*例年は、「太田秋田ライオンズクラブ」の協力者が運搬してくれるのであるが、今回は新型コロナウイルス感染症予防のため業者に運搬をお願いする。

積み込みに協力していただいた

ライオンズクラブのみなさんへ感謝の会



トラックに積み込んだ

花のプランターを見送る3年生



大槌学園三年生代表からのお礼の手紙

大仙市立太田中学校の生徒のみなさま

拝啓

秋冷の候、貴校におかれましては、益々で隆盛のこととお喜び申し上げます。平素は、格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、貴校におかれましては、毎年お心遣いいただき、感謝しております。

さて、この度は、きれいなベゴニアをたくさんお送りいただき、厚く御礼申し上げます。早速、わたしたち生徒の手で、昇降口前に飾らせていただきました。美しく咲くベゴニアを、少しでも長く楽しめるように、8年生175名が、順番に毎朝水やりをしております。

このベゴニアは、貴校で、毎年大切に育てているものとお聞きして、生徒の皆さんが心を込めてお世話されている光景が思い浮かびました。

何かと不便の多い今日ですが、この状況が一日も早く解消され、平穏な日々が戻りますようお願い申し上げます。

簡単ではございますが、御礼の挨拶といたします。  
敬具

令和2年10月29日

大槌町立大槌学園  
8年 藤社 雅乃

# 地域活性化に寄与できる子どもたちの育成 — 学校と地域が連携した防災教育を通して —

秋田県大仙市教育委員会教育指導課  
主幹兼指導主事

菅原 清三

## 防災教育に関わる大仙市内小・中学校の主な取り組み

- ① 支援と交流
  - 被災地支援（全小・中学校）  
募金、米、文房具などの送付
  - 被災地校訪問による交流（市内中学校）  
グラウンドゴルフ、プランター花のプレゼント、農産物の加工品などの販売、花火大会
  - 中学生サミット※による支援  
ヘルメットや図書の寄贈、被災地訪問による交流と学習会、交流活動の報告会  
※中学生サミットとは、市内全11校の中学生が自ら企画・立案し、お互いの交流を深めながら活動する実践の場
- ② 国や市の事業
  - 福島っ子との交流事業（平成23年度は市内5小学校、3地域）  
冬祭りへの参加や音楽活動、郷土料理体験
  - 文部科学省指定 復興教育支援事業（平成23～25年度）  
創作花火の打ち上げや鉢花贈呈
  - 市総合防災訓練への参加（平成23年度～）

### 「生き抜く力育成」事業の立ち上げ

秋田県大仙市では、東日本大震災の被災地に対し、平成23年度から小・中学校の児童生徒が文房具や花などを届ける支援を行ってきました。しかし、実際に被災地を訪問し、そこに生きる人々と触れ合う体験から、「共に生きる」ことの大切さを実感しました。そして、被災地から湧き上がる「生き抜く力」に学んだ経験を、「ふるさと大仙」のさらなる発展の原動力へとつなげていきたいと考えました。

また、これらの取組を通して、学校における防災教育の充実の必要性を感じました。中でも、地域の小・中学校における避難所運営については、本市の学校教育においても早急に取り組んでいく必要があります。

そこで、避難所となる学校と地域の自主防災組織などが連携し、災害時の避難所運営について実践的な訓練を実施することにより、児童・生徒の防災教育の充実を図っていくことを目指し、平成

25年度「だいせん防災教育『生き抜く力育成』事業」を立ち上げました。

本事業でねらう3本の柱は、次のとおりです。

- 「自分の命を自分で守る子ども」の育成
- 小・中学生によるだいせん絆プロジェクト
- 自主防災組織づくりから広げる地域力の向上

### 避難所開設訓練

本事業の中核をなすのが「避難所開設訓練」です。災害時に、生徒が地域の一員として自ら判断し、自助から共助へと主体的に行動する力を身に付けることをねらいとしています。毎年モデル校を選出し、その学校を避難所とする自主防災組織、市赤十字奉仕団、市総合防災課などの関係機関と連携して、避難所開設・運営や非常食の提供に係る防災訓練を行っています。また、市内全学校における取組の参考にするため、大仙市中学生サミットメンバーも訓練に参加し、自主防災の意識の高揚を図っています。

#### ①大仙市立豊成中の訓練

ここでは、昨年度のモデル校だった市立豊成中学校の訓練の様子を紹介します。

#### 〈主な活動〉

- ① 生徒避難
- ② 避難所開設
- ③ 地域住民避難
- ④ 避難所運営
- ⑤ 避難者への食事の提供





1. 生徒避難  
地震発生シェイクアウト訓練



2. 打ち合わせ  
担当リーダーのもと係ごとに避難所開設の打ち合わせ



3. 避難所開設  
施設安全班によるパーティションづくり



4. 炊き出し  
赤十字奉仕団のみなさんとカレーライスづくり



5. 応急処置実習  
赤十字奉仕団のみなさんと三角巾を使った応急処置を学ぶ



6. 避難所運営の引き継ぎ  
自主防災組織のみなさんへ運営の引き継ぎ

〈ねらい〉

- ・モデル校の実践として、地震発生時の避難訓練、避難所開設訓練に関わる初期対応の実際を体験する
- ・地域住民との防災訓練と体験を通して、自助から共助へと主体的に行動する力を身に付けさせる

- ・モデル校の実践に中学生サミットや市内教職員が参加することにより、市内各地域の自主防災組織に対する意識の高揚を図る

〈想定内容〉

豊成地域を震源とする直下型の強い地震が発生し、豊成中学校区の多くの家屋が倒壊し、倒壊を免れた豊成中学校に避難所を開設することとなった。豊成中学校では、1校時に地震が起こった。そのため、生徒たちの身の安全確保と大仙市災害対策本部からの要請で、避難所開設・運営に協力する運びとなった。

②訓練を終えて

避難所開設訓練後、参加された自治連合会長からは、「災害が起きた場合、この地域では、中学生の力が本場に大きく、頼りになっている。『そんな中学生を応援していこう』『学校に協力していこう』という気持ちを私たち各自自治会がもっている。すばらしい活動をしてくれた中学生のみなさん、本当にありがとうございます」という感想が寄せられました。

避難者に対し、自分たちができることを考え、臨機応変に対応する生徒の姿が随所で見られました。その場で考え、判断している生徒こそ、防災教育で育成を目指す資質・能力の中核をなすものだと感じました。

なお、昨年度、初年度モデル校として避難所開設訓練を実施して以降、地域と連携しながら毎年訓練を行っている大仙市立平和中学校は、防災教育の実践が評価され「第28回山下太郎 地域文化奨励賞」を受賞しました。

◆◆◆  
事業による学びをつなぐ

災害時の避難所運営についての実践的な訓練を通じた児童生徒の学びが、家庭や地域へと伝わり、地域住民や市民の防災意識の向上につながっています。大仙市教育目標「生きる力を育み、社会を支える創造力あふれる人づくり」のもと、本事業をはじめとする地域に根差したキャリア教育を推進し、今後も地域活性化に寄与できる子ども（地域を元気づけ、将来的に地域を支える人材と世界に羽ばたく人材）の育成を目指していきたいと思えます。



大仙市教育委員会  
Daisen City Board of Education